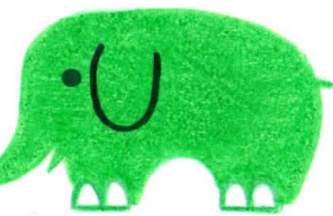


ぱおぱお ニュース



< 病気の豆知識 >



今月は… 『 **事故防止 (誤嚥・誤飲)** 』 です



2月3日は節分です。節分では豆まきや恵方巻を食べて楽しむ家族も多いのではないのでしょうか。しかし豆まきの豆による「誤嚥(ごえん)」や「窒息」が毎年のように起きているのです。

—— 赤ちゃんの気管は「ストロー」ぐらいの太さです ——

人間の気管(空気の通り道)は、その人の小指の太さと同じくらいとされています。お子さんの小指を見てみて下さい。特に赤ちゃんの場合、小指は細いストローぐらいの太さしかありません。




○誤嚥や窒息を防ぐためにお願いしたいこと * 誤嚥とは誤って気管に入ってしまうことです。

1. ナッツなどの乾燥した豆は5歳になるまで食べない!

乾いた豆は口の中で破片となり吸い込まれやすく、肺に入ると呼吸困難や肺炎を引き起こします。豆の小さな破片が気管の中で膨らんで気管をふさいでしまうこともあるので危険です。

2. 丸くてつるつるした食べ物は要注意!

ミニトマトやブドウのように丸くてつるつるしたものは  子どもののどにスッと入りやすく、詰まることがあります。食べる場合は4つに切って食べましょう。

○誤飲にも気をつけよう! * 誤飲とは本来飲み込んではいけないものが胃に入ってしまうことです。

- ・口径39mm以下の物は手の届かない場所に置きましょう。トイレトペーパーの芯の大きさ以下は危険!
- ・誤飲で怖いのはボタン電池!!

ボタン電池は体内に入っても放電し続け、胃や腸の壁に穴を開けてしまうことがあります。とても小さいため気付かずに対処が遅れて危険です。

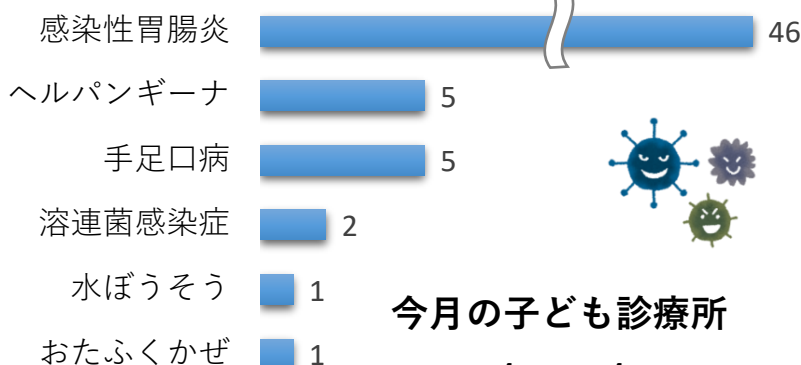


飲み込んでしまったときは大至急救急車を呼んでください。



誤嚥と誤飲はどちらも未然に防げるものなので、しっかりとした予備知識で危険を回避したいものですね。子どもが安全に楽しく過ごせるよう今一度危険なところがないか確認してみてもいいのではないでしょうか。

< 感染症情報 >



子ども診療所では…

- ・引き続き胃腸炎が増えています。吐き気が強く、脱水から点滴になるお子さんもいました。
- ・ロタウイルスが流行っているようなので、便や吐物の取り扱いには気をつけましょう。

病児保育室ぱおぱおでは…

- ・数日間嘔吐の続く胃腸炎のお子さんが入室していました。
- ・引き続き予約ムラが激しいです。

<霜柱をさがしてみよう！>



寒い朝の風物詩ともいえる霜柱。どのような仕組みかご存じでしょうか？霜柱ができる仕組みや発生する条件をご紹介します。子どもと一緒にできる外遊びとして、霜柱探しを取り入れてみるのもおすすめです。ザクザクという感触がしたら足元に目を凝らしてみましょう。

<霜柱はどこにできるの？>

○時期

晩秋から春先の寒い季節に発生しやすいです。関東地方では11月ごろから見られます。

○時間

地表の温度が氷点下になる朝が、霜柱の発生する時間です。ただし寒くなりすぎると地中の水分が凍結してしまい霜柱はできません。

○場所

毛細管現象で地表の土の隙間を水分が通り抜けると霜柱ができるため、柔らかい土の方が発生しやすくなります。

庭の花壇や畑、田んぼなどでよく見られます。

○その他の条件

晴れて風の無い日は放射冷却が進みやすいです。風の強い日は空気が動きやすいため水分が凍りにくく霜柱の発生条件には適しません。

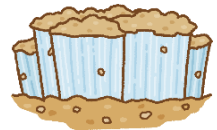
*「シモバシラ」という花もあるよ**

「シモバシラ」とは、シソ科の多年草で真っ白な花が咲くのが特徴です。シモバシラが枯れると茎の根元に霜柱ができる特徴があります。枯れた茎が根から水分を取り上げ、それが外気に触れて凍ることで霜柱のような氷柱を作り上げるためです。その時の水分量や気温など気象条件によってできる形は様々で、別名「ユキノハナ」とも呼ばれています。早朝の高尾山に行けば見られるかも…！？



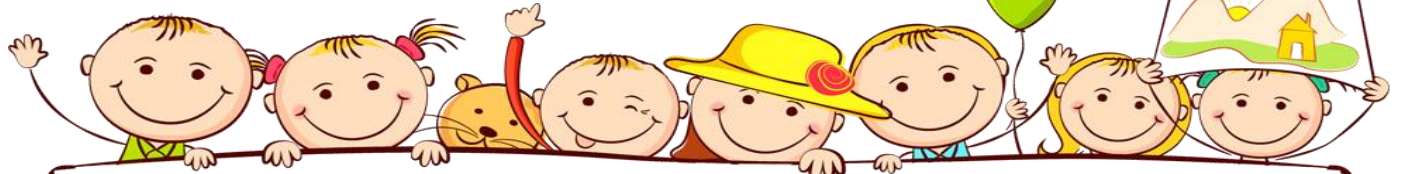
霜柱は作ることもできる！！

- ①一口大のゼリーカップにお湯でしっかり湿らせた土を入れる。
- ②1の上に湿っていない土を少しだけかぶす。
- ③カップ麺など、発砲スチロールでできた容器の中に細かく切った新聞紙を敷き詰め、2を中央に置く。
- ④3を冷凍庫に入れて1～2時間冷却。時間経過後に取り出すと霜柱の完成！



霜柱ができる期間は限られています。しっかり防寒をして親子で季節の風物詩探しのお散歩に出てみたり、お家で霜柱づくりをして身近な不思議を体験してみましょう♪

保育室のご利用には 事前の登録が必要です！



新規ご登録は随時行っております。まずはお気軽にお電話を♪

お問い合わせ 病児保育室ぱおぱお（月～金 8：30～17：30）

TEL 042-521-2777